

卒業おめでとう

歯学部長 花田 晃治

第30期の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。長かった6年間の勉学を遂げた今、晴れやかな希望に満ちていることでしょう。これから研修、大学院、就職と当面は修練の道は違いますが、将来の優れた臨床医、研究者を目指して、一日一日を自分で決めた道をまっすぐに楽しく生きてください。

これから皆さんが出てゆく日本の社会は経済・医療の発展を通じて世界中でも最高水準の長寿国となり、人生80年は現実のものとなっています。さらに、わが国における人口の超高齢化の特徴は、その進行が急速であること、高齢化率が世界のなかでもっとも高い水準に達することであり、この傾向はさらにスピードアップしています。

ところが長寿にあって最高の楽しみの一つである「食べる」ことに関係する口腔内についてみると残存歯数はわずかとなり、「食べ物がよく噛めない」「入れ歯が合わない」と訴えている老人は多数にのぼります。人間の寿命と歯の寿命が反比例しています。

今の日本において「衣食住」の環境は高い水準にありますが、口腔内にあつてう蝕疾患・歯周疾患・顎関節疾患は複雑になっています。患者さんが抱える疾病は慢性疾患中心となり、ある種の病と共存しつつ、いかに質の高い人生を送れるかです。医療に加え介護や福祉まで含めた総合的社会保障の再検討が進めれています。今こそ「医食住」の改善が急務です。噛むことの重要性を説きながら食糧事情を改善し、快適な社会環境作りに参画しながら、歯科医療の質を高める努力が必要です。

その役割を果たすのは皆さんです。高齢者が社会機構のなかで重要な役割を果たしうるためにも、快適な社会生活を送りうるためにも、コミュニケーションの基本となる発音、審美性、咀嚼などに優れた口腔機能を青年期、壮年期に確立しておかなければなりません。この役割を果たしうるのは皆さんです。

皆さんの活躍が期待される21世紀では、こうした長寿化に加えて国際化、情報化、環境問題など人類を取り囲む状況が大きく変わろうとしています。国際化に伴って疾患構造はボーダーレス化し、わが国において歯科医療を受ける患者さんも多国籍化することが考えられますし、皆さんも地球規模で活躍することが期待されるでしょう。国際的な評価に耐えうるような知識、技術を身につける必要があります。その前にまず、口腔疾患の治療だけでなく、疾病の予防、リハビリテーション、介護、福祉まで一貫して考えられるようになることを期待されています。

今、社会は、歯科医師に対して幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感をもっていることを求めています。これらは今までに受けた教育だけでは不十分で、生涯を通じた学習、研修によって得られるものです。そのうえで患者さん中心の、患者さんの立場に立った歯科医師として患者さんからの信用を得られることでしょう。

歯科医師という職業を真摯に受けとめながら、自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。皆さんの活躍を大いに期待しています。

第30回の卒業生の皆さん、卒業おめでとう

歯学部附属病院長 河野正司

新潟大学歯学部の6年間の学生生活を青春時代の貴重な思い出として、大学を巣立って行く皆さんに、心からのお祝いを申し上げます。

人生いかに過ごすべきかと哲学的な討論に、あるいは青春の華やかなページをかざる恋愛論に、さらには歯科医学の将来像についてと、悩み、楽しみ学生時代を謳歌してきたことと思います。過ぎ去ったこれらの出来事は学生時代の良い思い出として、これからの人生の糧として、一生残ることと思います。

さて、晴れて歯学士となった皆さんは、直ちに臨床医として実社会へ第一歩を踏み出す人、研修医や大学院生として大学で臨床研修や歯学研究に取り組む人など様ざまでありましょう。これまでの学生生活のように、隣人のノートや行動を追いかけていけば、大学の学生護送船団方式に守られて何とか過ごせた社会とは異なり、いよいよ隣人と差をつけなければ存在していけない社会へと、漕ぎ出て行く諸君。やっとなり諸君の実力が社会に評価される立場に立ち、意欲満々のことと思います。

何れの道を歩もうとも、本学部で培われた「科学する心」と、慈しみの心をもって患者さんのために尽くす「医の心」を決して忘れないで下さい。「患者さんのために」をキーワードとして「患者さんのために何をすべきか、何が出来るか」を常に自らに問い、真剣に考えて下さい。

義歯を使用するまではベットに伏していたお年寄りが、義歯の装着により咀嚼能力が回復しただけでなく、顔貌・審美性も、歯のあった時代へと若返り、ベットから離れて、外出することができるようになった事をよく耳にします。咀嚼機能の回復は精神的な状態の向上にも大いに関わるように、高齢者にとっては生活意欲の向上へとつながっていきます。急ピッチで超高齢化社会を迎えている我が国において、口腔疾患と全身疾患との関連が益々重要になってきます。口を見て全身を見ないことのないよう、常に全身状態に対する注意を払うとともに、患者さんの意志を尊重した歯科診療を行うことを心がけて頂きたいと思います。

新潟大学歯学部は、創設以来今日に至るまで、地域社会はもとより全国各地で活躍している多くの歯科臨床医を始め、保健・厚生行政官、教育・研究者を輩出しており、日本海側唯一の国立大学歯学部として役割を果たしてきております。諸君もその充実した学部教育を受けて、日本各地あるいは世界へと広がり活躍されていくことと思います。新潟大学歯学部で育てられた歯科医師としての種が、諸君らによって広く世界中に播かれるのです。この種に水を与え、栄養を加え育てていくのは、諸君自身であります。十分に育まれた種が豊かな芽を出し、大きな葉を茂らせてくれることを期待しております。

歯学部第30回卒業祝賀・謝恩会の報告

加齢歯科学講座 野村 修 一

歯学部卒業祝賀・謝恩会は3月23日（木曜日）午後4時30分からホテルオークラ新潟、末広の間で開催された。今年度から卒業式に引き続き行われていた卒業祝賀会と卒業謝恩会が統合された形式となり、卒業生、教職員、後援会ならびに同窓会の役員、卒業生のご父兄など関係者が一堂に会し、広い会場は祝賀ムードで盛り上がった。

会はまず、花田晃治歯学部長から卒業生47名一人一人に学位記が伝達された。さらに、2名の学生にデントサプライ成績優秀賞が授与された。引き続き、花田歯学部長から卒業生に、これからの超高齢社会における歯科医療の質を高める役割と、さらに国際化する社会への貢献を期待している旨の祝辞が送られた。

次に同窓会入会式に移り、神田正一歯学部同窓会長は西暦2000年に区切りの30期生として卒業する後輩への祝辞と、同窓会への入会を歓迎する言葉を贈るとともに同窓会のさまざまな活動を紹介した。

その後、来賓の今井 博新潟県歯科医師会専務理事（神成肅一会長の代理出席）から発想を転換し、未来から学ぶ姿勢がこれからの歯科界には重要であるとの祝辞があった。来賓の三上憲一郎歯学部後援会長から卒業生ならびに父兄への祝辞、大学関係者へのお礼の言葉があった。

最後に、河野正司病院長が卒業生に南蒲原郡下田村「漢学の里」にたつ諸橋轍次記念館に掲げられてある言葉「行不径由（いくはこみちによらず）」を餞に贈られた後に乾杯を発声され、祝宴が始まった。少し遅れて、各学部の卒業祝賀会を廻っていた荒川正昭新潟大学長が会場に駆けつけられ、卒業生一同にお祝いと激励の言葉を贈られた。

会は謝恩会へと進行し、卒業生代表による謝辞、ならびに卒業記念品として絵画の贈呈が行われた。また、卒業生の投票によるベストライター賞として、子田ヘッドインストラクターと、第2保存科の村田先生に花束が贈られた。

卒業生は互いに6年間の学生生活の思い出を話合ったり、指導教官と苦労話を語り合ったりしていた。卒業式直前に行われた歯科医師国家試験の結果が少し気掛かりな様子も窺われたが、会場は歓談の輪で満たされた。出席のご父兄も安堵した顔つきで、指導教官と嬉しそうに会話する様子が印象的であった。続いて、余興のビンゴゲームに移ると会場の熱気は最高潮に達した。栄えあるビンゴ第1号は歯科保存学第1講座の岩久教授であった。

最後に、教授全員と臨床実習でお世話になった総合診療室の看護婦さんに花束が贈呈され、祝賀・謝恩会は盛会裏のうちにお開きとなった。

